

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26870297

研究課題名(和文) カメルーン東南部狩猟採集社会における遅延報酬の許容と萌芽的な社会階層化

研究課題名(英文) Time patience and control of social stratification among the hunting and gathering society of southeastern Cameroon

研究代表者

大石 高典(Oishi, Takanori)

東京外国語大学・現代アフリカ地域研究センター・講師

研究者番号：30528724

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：カメルーン東南部の調査地では、バカ・ピグミーと商人との関係が深まっており、これが生業活動の選択に影響していることが明らかになった。バカ・ピグミーと商業民との間で行われるさまざまな財やサービスの委託関係は、バカ・ピグミー社会に新たな生計維持のための新たな方法をもたらしており、一部のバカ・ピグミーはこれを積極的に取り込んでいる。商業民との経済的な関係の深化は、民族間関係を流動的なものにしただけでなく、狩猟採集社会内部の社会関係にも影響がみられる。今後、バカ・ピグミー個人の日常的な生業活動選択に、商業民や農耕民との社会関係がどのように複合的・相互的に影響しているかを明らかにすることが必要である。

研究成果の概要(英文)：The Baka of southeastern Cameroon are struggling to adapt to the market economy without giving-up the hunting and gathering lifestyle. This study examined how their relationship to merchants impacts on subsistence activities and individual sense of value, especially time patience. Findings show that some Baka forge entrepreneurs to challenge new businesses at small-scale and get success. Further study is needed to understand how widely observed acceptance of delayed return economic activities and diversification of cash gaining behaviors are related to social transformation not only between the Baka and their neighbors but also among the Baka individuals.

研究分野：生態人類学

キーワード：狩猟採集民と商業民の関係 バカ・ピグミー 狩猟採集民の起業家精神 カメルーン

1. 研究開始当初の背景

熱帯アフリカの狩猟採集民は、生業活動におけるリターンが直接的で即時利得的な経済システムと密接に関連した平等主義規範を築いてきた。カメルーン東南部のバカ・ピグミーは換金作物生産を行っている。カカオ栽培は、播種から収穫まで少なくとも5年以上かかる典型的な遅延利得経済の特徴を有する。本研究に先行して行った研究結果では、かれらのカカオ栽培は、むしろ遅延利得経済への擬似的な適応であって、実際のところは貨幣を媒介とした嗜好品や商品など魅力的な使用価値への強い関心に動機づけられていることが明らかとなった。交換価値を有する貨幣が、狩猟採集民的な「眼前への関心」と遅延利得経済的な生業活動をつないでいると言える。しかし、擬似適応を繰り返すなかで、狩猟採集民コミュニティの中に本格的に資本蓄積を行う者が少しずつ現れてきているのも事実で、例えば、カカオ園の所有者が、近親者を含む他のバカ・ピグミーによるカカオ豆の収穫(盗み)を許容するかどうか、また現金収入を全て即時消費してしまうか、それとも消費を抑制するかなどの行動選択の上で個人間に大きな相違がみられるようになってきている。

2. 研究の目的

長期にわたり政治経済が安定したカメルーン東南部において、狩猟採集民バカ・ピグミーの社会は継続的に市場経済にさらされてきた。その結果、経済的不平等の拡大とともに、遅延報酬を許容し富の蓄積を積極的に志向する少数者と平等主義的多数者の間で萌芽的な社会階層化と葛藤が生じている。本研究では、社会階層化のメカニズムをミクロな文化進化のプロセスとして捉え、(1)どのような個人が積極的に遅延報酬を許容しているか、(2)遅延報酬を許容する行動特性は、居住集団内でどのように伝達されているか、(3)財産としてのカカオ農園形成は、ジェンダー関係、および親子関係にどのような影響を及ぼしているか、を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

- (1) バカ・ピグミー個人がどのように日常の生業活動選択を行っているかを観察する。とくに、労働投資からリターンが得られるまでの時間が異なる生業活動を個人がどのように選択しているかを近隣農耕民や商業民との関係に配慮しつつ、明らかにする。
- (2) 実験心理学手法を用いて、バカ・ピグミーと近隣農耕民バクウェレを対象に、どのような生態学的、社会経済的、文化的な属性を持った個人がより積極的に遅

延報酬への許容性を示すかを明らかにする。

- (3) 農耕や賃労働など遅延報酬への許容を必要とする活動が、バカ・ピグミーの集団内でどのように伝達されているかを参与観察と聞き取りにより明らかにする。その際、とくに財産としてのカカオ農園形成が、ジェンダー関係、および親子関係におよぼしている影響に留意する。

4. 研究成果

当初研究計画のうち、(1)と(3)については十分に調査を行うことができたが、研究代表者の研究期間中の2回の異動に伴い、1年目と2年目に十分な渡航期間を確保できなかったために(2)の実験心理学的資料収集は予備調査を行う段階に留まった。以下、主にバカ・ピグミーの生業選択について現地調査から得られた知見を述べる。

- (1) バカ・ピグミーの生業選択の多様化とその要因としての商業民との関係形成

カメルーン東南部の調査地では、バカ・ピグミーと商人との関係が深まっており、これが生業活動の選択に影響していることが明らかになった。

カメルーン東南部では、マクロな政治経済条件が独立以来一貫して安定していることや、熱帯林伐採事業の拡大、植民地期に導入された換金作物であるカカオ経済が堅調であることを背景に、アフリカ熱帯林社会において従来アクターである狩猟採集民やバンツー系農耕民の居住地に定住化する商業民が増加した。その傾向は、2000年代後半以降特に顕著である。定住化した商業民は、市場経済と地域経済を媒介する役割を担い、ローカルなレベルでの政治経済秩序や民族間関係における力学の変化を促進している。

商業民にとって、バカ・ピグミーとの関係の維持は基本的には功利的な目的(経済的な利益の拡大)によって動機づけられている。しかし、バカ・ピグミーにとっては商業民との関係を深めることは、現金経済上の利益のためというにとどまらない社会的な意味を持っている。

すなわち、商業民との間で行われるさまざまな財やサービスの委託関係は、バカ・ピグミー社会に新たな生計維持のための技術革新をもたらしており、一部のバカ・ピグミーはこれを積極的に取り込むことによって、伝統的にパトロン=クライアント関係を結んできた農耕民から独立した生計経済を営む契機となっていることが看守された。

農耕民と比べたとき、商業民は狩猟採集民をより対等な経済的交換の相手だとみなしているといえる。しかし狩猟採集民の商業民への経済的な依存は、節度のない嗜好品消費

や商品購入をエスカレートさせてもいる。商業民から借金を重ねるといった悪循環の挙句に、農園委託関係がいたずらに延長されて土地の用益権を失い、ほぼフルタイムで日雇い賃金労働を行うようになっていくパカ・ピグミーも少なくない。

(2) 定住集落周辺におけるパカ・ピグミー社会の社会的階層化の傾向と社会統合の維持

パカ・ピグミーは、商業民との関係を深めることによって、農耕民の媒介によらずに市場経済システムに直接的に関与できるようになった。換言すれば、各個人が狩猟採集の生産物や労働サービスの交換相手を選択できるようになった。その選択肢には、従来の交易相手である農耕民、新しい交易相手である商業民、のほかに他のパカ・ピグミーも含まれる。交易や賃労働により得られた現金を貯蓄して他のパカ・ピグミーを雇用したり、定住キャンプの一角に土壁や木造家屋を複数建てて、部屋を商業民や農耕民に貸し出して家賃を稼ぐパカ・ピグミーが現れてきているといった事例は、商業民との経済的な関係の深化が、民族間関係を流動的なものにしただけでなく、一部の狩猟採集民個人の価値観を変容させ、狩猟採集社会内部の社会関係にも大きな影響を与えていることを示唆するものである。こういった傾向は、特に定住集落周辺において顕著である。

定住集落に移住・定着する商業民の増加は、定住集落の一部に都市的な空間を作り出している。そこでは、単に交換に貨幣が用いられる（貨幣経済）というだけでなく、市場経済の中に包摂されるなかで、商人と狩猟採集民の関係が形成され、それと同時に従来の農耕民との関係や狩猟採集民内部の社会関係が大きく変わってきている。

ただ、商業民との関係が強くなる一方で農耕民との関係が切れてしまったわけではないことにも注意が必要である。今後の課題として、パカ・ピグミー個人の日常的な生業活動選択に、商業民や農耕民との社会関係がどのように複合的・相互的に影響しているかを明らかにすることが挙げられる。それは、隣人たちとの変わりゆく関係の中で、パカ・ピグミー社会が、どのように狩猟採集社会として社会的統合をたもってゆけるのかという問題と深く関わってこよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 25 件)

Oishi Takanori, Aspects of interactions between Baka hunter-gatherers and migrant merchants in southeastern Cameroon. *Senri Ethnological Studies*, 94 (Kazunobu IKEYA

and Robert K. HITCHCOCK eds., Hunter-Gatherers and their Neighbours in Asia, Africa and South America): 査読あり、2016., pp. 157-175.

大石高典、「コンゴ盆地におけるピグミーと隣人の関係史——農耕民との共存の起源と流動性」池谷和信編『狩猟採集民からみた地球環境史——自然・隣人文明との共生』東京大学出版会、査読あり、2017年、pp. 128-141.

Oishi Takanori, Ethnoecology and ethnomedicinal use of fish among the Bakwile of southeastern Cameroon. *Revue d'Ethnoecologie* 10 (Special issue: Inland traditional capture fisheries in the Congo Basin), 査読あり、2016.

ほか

〔学会発表〕(計 19 件)

Oishi Takanori "Elephant hunting and YouTube: Role of new media in visualization of conflict between Conservation and Indigenous movements in Cameroonian tropical rainforest." The 6th HK (Humanities Korea) International Conference, The Institute of African Studies, Hankyong University of Foreign Studies (HUFS), Yongin, South Korea, 6th October 2016. (Oral presentation)

Oishi Takanori, "Conservation and Human-animal boundaries in Southeastern Cameroon." The 15th Congress of the International Society of Ethnobiology, Makerere University, Kampala, Uganda, 2nd August 2016. (Oral presentation)

Oishi Takanori, "Land conflict in multi-ethnic context: trans-ethnic negotiation and cultural transmissions in the expansion process of cocoa farming in southeastern Cameroon" The Forth Forum on "Comprehensive Area Studies on Coexistence and Conflict Resolution Realizing 'African Potentials'" Tou'Ngou Hotel, Yaoundé, Cameroon, from December 5th, 2014. (Oral presentation, Invited lecture)

ほか

〔図書〕(計 1 件)

大石高典、京都大学学術出版会、民族境界の歴史生態学 カメルーンに生きる農耕民と狩猟採集民、2016年、280pp.

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

http://www.tufs.ac.jp/research/people/oshi_takanori.html

6．研究組織

(1)研究代表者

大石高典（OISHI, Takanori）

東京外国語大学・現代アフリカ地域研究センター・講師

研究者番号：30528724

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者 なし

(4)研究協力者 なし